

山陰仏社会報



Sō-Sō

[壯創]

第7号

山陰教区仏教壮年会連盟会報・第7号

【編集・発行】山陰教区仏教壮年会連盟事務局
〒690-0002 松江市大正町443-1(本願寺山陰教区内)
電話(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351



仏教壮年会連盟

結成大会に参加して

山陰教区因幡組隆建寺 中村正志

ご門主様ご臨席のもと、全国から多数の方が参拝され盛大に行なわれた事は、私にとり意義深いものが有ります。私が仏社会員となり、お念仏に巡り会えた事です。現在の仏社の活動の有り方をもっと認識し、全寺院の門信徒が住職や坊守様と力を合わせて、仏教壮年が、自覚を新たに各寺院との積極的な交流を図ると共に、組織の拡大をはかっていかなくてはならないと思います。現在それに向けての活動を行なっている所であります。

現在では、伯耆組でも各寺院の協力のもと、五か寺と増えてきております。これも因幡組と連携を取りながら、研修会等を行なっている所であります。仏教壮年会連盟の結成に当り、新たに仏教壮年会連盟会員式章ができ、これを期に活発な活動を進めていかななくてはならない気持がしみじみと、実感致します。仏教壮年会連盟結成に当り、仏教壮年会連盟綱領にあるとおり、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き共にお念仏申す朋友の輪を拡げ、お念仏をいただく一人の人間として、また仏社会員として、心の通った組織を築いていきたいと思っています。

合掌

仏壮組織拡充について

山陰教区仏教壮年会連盟副理事長 森山 陽治

一昨年四月浄土真宗本願寺派仏教壮年会連盟が発足し、早や二年を迎えようとしています。

教区仏教壮年会連盟は二〇〇五年から大遠忌法要のつとまります二〇一一年の長期にわたり、仏壮拡大に向けての年次計画をたてあられる機会を捉え組織拡充についてのお話をし、ご理解をいただいているところではあります。現状は目標の半分にも満たない二二%弱というほんとうに厳しい現状にあります。

これは地域によって格段の差があり、これをブロック別に見ますと、出雲ブロック四八%、石東ブロック五%、邑智ブロック九%、石西ブロック一五%、鳥取ブロック三九%であります。特に石見部全体の結成率が約一〇%と低く、これは、過疎・少子高齢化・ご法義地帯ということも考えられますが、年次最終年の二〇一一年の五〇%の目標達成までに残された期間は一年、先般の教区仏教壮年会連盟の常任理事会にお

いて、現在の教区の進捗率から行けば三〇%も、おぼつかないのではと危惧される状況にあるところから、手法をかえて結成率の低い組・寺院に教区仏教壮年会連盟の会長・理事長等が出かけて、組長や末結成寺院の住職と阻害要因等

「念仏(者)」とは何か確かめたい

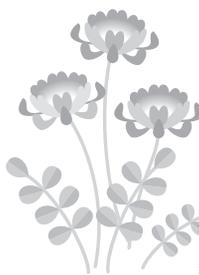
石東・大田・三瓶三組合同仏教壮年会代表 斎藤 寛

私は、仏壇に向かい「ナモアマミダブツ」と唱え、手を合わせると、私の反省心がかきたてられ、自分がかに慢心や驕りと虚栄に満ちた存在か、気づかせてもらい謙虚になれる。これが「念仏」信仰だ、と思います。

私は門推員ですが、だから宗派の基幹運動やこれを担う「仏壮」にはほとんど関心をもたずにいました。

しかし、三組の門信徒会運動研修に出て、世話役から宗祖の教えは「本願念仏」です、と聞かされ、私が考える「念仏」とは違うのではな

について、忌憚のないお話を聞き、教区仏教壮年会連盟として、どのようにアプローチをして行くべきか、その実態を把握するため順次全組へお伺いする予定でありますので、ご理解とご協力をいただきますようよろしくお願い致します。



いか、不思議に思い少し頭を傾げるようになりました。

さいわい、結成された合同「仏壮」の基本に、「本願念仏」のいわれ(由来)を聞くため各寺院に「仏壮」を起ち上げよう、との申し合わせがあります。

いま私は、「本願念仏」が、「すべての人びとを、生きていく時かかえる苦悩から等しく救済する」となるのはなぜなのか、私の正面で聞き、受けとめる代表をめざし、精進したいと思っています。

「勲賞」されて、ぼくが思うこと

山陰教区仏教壮年会常任理事

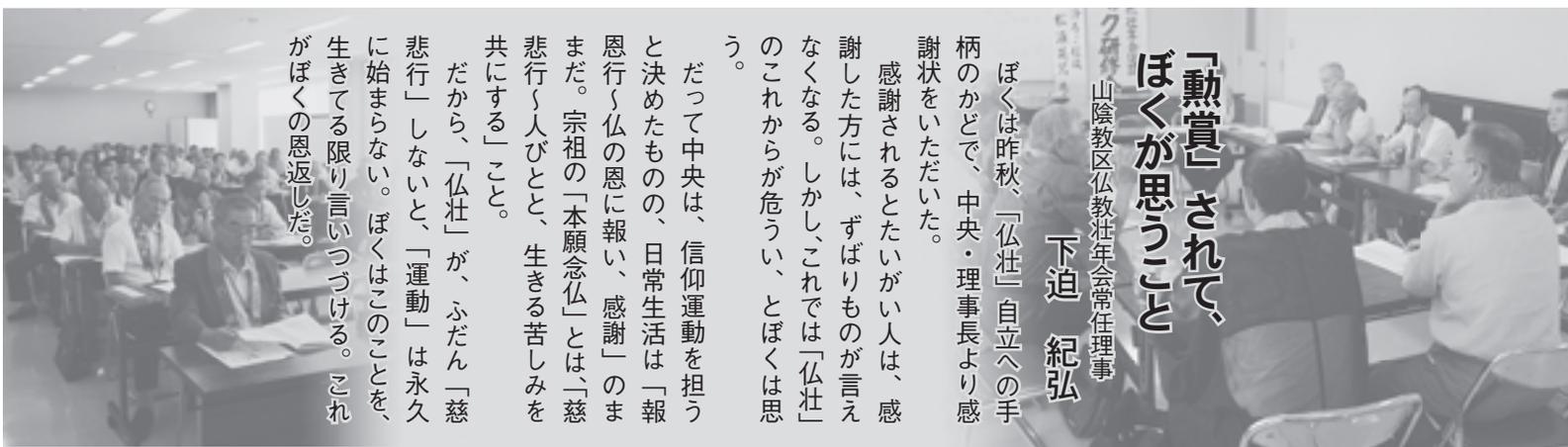
下迫 紀弘

ぼくは昨秋、「仏壮」自立への手柄のかどで、中央・理事長より感謝状をいただいた。

感謝されたいがい人は、感謝した方には、ずばりものが言えなくなる。しかし、これでは「仏壮」のこれからが危うい、とぼくは思う。

だって中央は、信仰運動を担うと決めたものの、日常生活は「報恩行」の恩に報い、感謝のままだ。宗祖の「本願念仏」とは、「慈悲行」人びとと、生きる苦しみを共にすること。

だから、「仏壮」が、ふだん「慈悲行」しないと、「運動」は永久に始まらない。ぼくはこのことを、生きてる限り言いつづける。これがぼくの恩返しだ。



仏教壮年会拡充・拡大 に向けての意見交換

山陰教区仏教壮年会連盟理事長

杉本 健治

平成二十二年三月十七日(水)、本願寺山陰教堂にて、大家組 原田 光生組長、温泉津組 藤谷崇文組長 両氏に、教区仏教壮年会連盟理事長 杉本健治、副理事長森山陽治(組織拡充委員長)、教区仏教壮年会連盟担当専従員の三名で仏教壮年会の組織拡充・拡大に向けての意見交換をさせていただきました。

両組の現状としては、過疎と少子高齢化の傾向がはなはだしく、門徒数も少ない現状では会費の問題もある。少人数でも登録できるように会費の見直しを考えていただきたい、とのことでした。温泉津組としても十二ヶ寺あるが各単位寺仏壮が参加できるように組として登録する方向で活動の見直しがされているとのことでした。仏壮連盟としての基本は寺院単位の仏教壮年会の登録が基本であることをお話させていただきました。組での研修会も年一回開催されているとのこと、今後の活動に期待しています。

教区仏教壮年会連盟では平成二十二年度もこのようにさまざまなご意見を賜りながら、仏壮拡充と拡大に向けて働きかけを展開していきます。

お寺本来の あるべき姿の象徴に

「寺報」ではなく「門信徒のこぼれ」

大田組真浄寺 松浦 英篤

住職を継職させていただいて一年。根が「アナログ人間」である私にとつて、他のお寺のご住職方がパソコンを駆使して「寺報」を発行されているのはプレッシャー以外の何ものでもなく、真浄寺の寺報も何とかしなければ、と焦るばかり…。予想どおり、門信徒の方からも、「ご院家さん、そろそろ『寺報』でも出しなさらんと…。」という催促の声。やっとならぬ腰を上げ、自分ひとりでは作成できないのをいいことに、門信徒会の中から「委員」を募って編集委員会を立ち上げたのが昨年十一月のこと。

その話し合いの中で、お寺(住職側)が一方的に情報を発信する「寺報」というスタイルではなく、「お寺」―「門信徒」双方向で情報を共有する誌面にしていくべきだという編集委員さんの意見を取り入れ、「開かれたお寺」というコンセプトを基に構成していく。

まずは、誌面の「顔」となる表紙の写真は何にしようか、という議論。お寺側は「創刊号ではあるし、報恩講が終わった直後だから、みんなでお寺にお参りしている写真を…」

と言うと、ある編集委員さんが「いかにも『お寺』のにおいプンプンで、すぐにゴミ箱行きになりますよ！お寺を変えたい、という意識があるなら、お寺臭くない写真に！」というダメ出しをくらう。様々な意見をいただき紆余曲折の議論を重ね、「真浄寺 門信徒のひろげきんなん」は、何とか正月に完成。

作成過程を振り返りながら、今まで知らず知らずのうちに積み上げられてきた「お寺側からの押しつけ」の姿勢が如実に顕れていたことを反省。「寺報」に限らず、日常の「お寺」と「門信徒」の関係が、上から押し

つける一方通行の関係になっていなかったらどうか？ お寺が本当に門信徒の皆さんのためのものになっているのだろうか？

「生きとし生けるすべてのものをひとしくもたらさず必ず苦悩から救う」という本願念仏のみ教えを掲げるのであれば、「お寺」―「門信徒」という縦の関係から、「ひろげきんなん」という誰でも行き来のできる空間に。また、悩み、苦しみ、楽しみなどを相互に共有し意見交換ができる場にしていかなくてはならない。それがお寺本来のあり姿の基礎であり、お寺としての存在意義があると考えます。

仏教壮年会連盟綱領の唱和について

山陰教区仏教壮年会連盟副理事長 泉原省三

平成二十年四月一日から仏教壮年会連盟が結成され新たなスタートをきりました。綱領の唱和について徹底が不十分でありましたので掲載いたします。ご確認のうえ統一されまますようお願い致します。

綱領の唱和は四文節になります。

- (代表のみ発声) 仏教壮年会連盟綱領
- (代表が発声) われわれ仏教壮年は、
- (参加者一同) われわれ仏教壮年は、
- (代表が発声) 自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、
- (参加者一同) 自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、
- (代表が発声) ともにお念仏申す朋友の輪を広げ、
- (参加者一同) ともにお念仏申す朋友の輪を広げ、
- (代表が発声) 心豊かに生きる社会の実現を目指します。
- (参加者一同) 心豊かに生きる社会の実現を目指します。

仏壯鳥取大会を終えて

浄徳寺仏社会長

川瀬 公昭

昨年一月、仏社会長に選出され
慌ただしく八月の仏壯鳥取大会を
迎えました。

大会の会所として、皆様に気持ち
よく研修していただくように、
ご住職・門信徒会・仏婦・仏壯の
方々に大変助けていただき、無事
大会を終えることができました。

今年の研修より、班別の発表か
ら各寺院の仏壯事例発表に変わ



り、各寺の問題点等の取り組みが
わかり、有意義な研修でした。

又、当日の雰囲気等は、竹内会
長の軽妙な進行による運営によ
り、例年と違う鳥取大会となりま
した。

これからも他の寺の仏社会長、
仏社会員が協力して、多くの仏壯
会員に参加していただけるよう、
盛り上げていきたいと考えていま
す。

鳥取大会が、成功裏に終えさせ
ていただけたのも、沢山の方のご
協力の賜と、心より感謝申し上げ
ます。



三組合同

研修会について

山陰教区仏教壮年会連盟理事長

杉本 健治

石東、大田、三瓶組合同の門信
徒会運動研修協議会が平成二十一
年七月十二日(日)に三瓶町池田
の照善寺様を会場に「今、なぜ仏
壯なのか」というテーマのもと、
四十六人の参加で開催された。私
は浜田から行きましたが、会場近
くになると「キッズサンガ」の「の
ぼり」があちらこちらに立ててあ

り心温まるものを感じました。照
善寺様は浮布池のほとりにありす
ぐわかりました。

今回のこの研修協議会は、お寺
の現状を見たときこれでよいの
か、また門信徒として、特に仏教
壮年は基幹運動の中核、推進者に
なるとの使命があるが現実はどう
だろう。拓かれた寺にしよう、門
信徒と寺院の課題を共有し共に努
力しようということで開催され、
参加者四十六人が三分散会に分か
れて話し合いをした。

いろいろと出ましたが、幼児期

からの仏縁の大切さ、家庭での日
常の仏参がなされているか、僧侶
と門信徒との人間関係をつくるこ
とが大切であり、この話し合いも
話し合いで終わるのではなくて自
ら自分の課題として出来ることか
ら、できるように実践することが
大切です。共々努力しようではあ
りませんか。



編集後記

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要
をいよいよ一年後に控え、山陰教
区に於いてもお待ち受け法要も始
まりました。

このご縁を迎えるにあたり、浄
土真宗の門徒一人一人が心あらた
にして一層の努力を心がけて、山
陰教区内全寺院に仏教壮年会連盟
を結成し『親鸞聖人のみ教えに聞
き』ともに世の安穩を目指して歩
みたいものです。

本号発行に寄稿いただきました
皆様に厚く御礼申し上げます。

合掌

(飯石北組 大崎 強)